

出来ないこと、いつしよにしようとしないうこと、いつしよでなくて平氣であること、更にいつしよでないことを楽しんでゐるかの風のあつたりすること、こゝに却つて重要な訓練上の問題があるのである。

但、これを以て眞に一齊劃一行動の訓練とのみ解してはならぬ。進んでいつしよになれるかならぬかの點で、つまり、社會性訓練の最初の出發點となるものである。一齊に揃ふかどうかといふ形式ではない。そういうふことは、もつと後の問題であらう。

入園早々訓練されるといふと、なんだか幼児に無理を強ひるかの感をもつ人もあるかも知れない。その訓練が無理のものでつたら無理であらう。しかし、幼児は、訓練されることによつてこそ、眞に幼稚園生活の快さを味はせられるであらう。幼児は案外生活のきまりが好きである。生活訓練を楽しく感じさせること、これこそ、新入園児訓練の第一の要點であらう。即ち新入園期によき其の時期に順序正しきといふ意味でのよき訓練を受けることは、後の幼稚園生活全體の訓練を受け易からしめる事になる。入園直に訓練の強制をするのが、いけないと共に、入園早々だからといつて、無訓練の時期の如く経過させるのも、最もよくない。

但、斯うは申すものゝ、實際はどんなに骨の折れることかと敬意を表す。しかも亦、それだけに、新入園當初こそ、保姆諸君にとつても、年々の最好訓練期であらう。

自由遊戯

上遠文子

はしがき

毎朝、「おはやう」と幼児を迎へる。子供達の自發活動は自由遊戯^ビとなつて、私達におかまひなく働きかける。働きかけられた私達はそれに一生懸命反應して幼児の生活に飛込んでゆく。

幼児の生活全部であり、保育の基礎である自由遊戯を、私達はともすると保育の一部分と見て、保育案の片隅にかたづけてしまひ、學校の放課時と同じものに誤解しがちである。

私達はその現れた自發活動を上手に指導し、又種々な遊戯も此方より提供し、幼児の生活をより楽しく又より豊富にしてゆきたい。そこで、この貴重な自由遊戯をどう指導し誘導していつたらよいかと云ふに、私共は先づ自分を幼児の氣持に引もどし幼児の世界に入りこみ、それから年齢、季節、場所によりそれ／＼工夫してゆかねばなりません。理論は理解出来る。しかし實際接してみれば、そこに疑問あり、煩悶ありなので、充分工夫し研究し經驗を重ねてゆかねばならぬわけでありませう。

さて、具體的の保育案に入つてゆく。

四月櫻の花も春風にそる／＼ほころび始め、新しい園児を迎へる。幼稚園生活に馴れぬ幼児、活動力のまだ乏しい幼児を前にして、私共は幼児の活動力を引出して、自由に自分で表現出来る様に導いてゆく事を考へなければならぬ。其處に保姆の知識と手

腕を要するのであります。

人形遊び 元來幼稚園は家庭の延長型のものであるが、入園と共に社會といふ團體生活にはじめて入つて來た幼児には、子供ながらに一種の不安も抱かれるであらうからそれに對しては、特に家庭延長を強く感じさせる事が必要でせう。「お家にあるのと同じ様な人形もある」と思ふ時、幼児はそこになごやかな親しみを感じて來るのです。ですからこゝに用ふる人形も一般に家庭で幼児が抱いて遊んでゐる布製のくるみ人形がいゝでせう。唯、抱いたり、寝かしたり、お散歩と一緒につれてあつたり、持つて遊ぶ程度でよい。大きさは隨意ですが、餘り小さいのより、寧ろ大きい位の方が喜ばれるであらませう。

繪本よみ お天氣は好いが、お庭に出るには少し早い、皆を集めて御本よみをする。唯機械的に文字をたどつてゆくだけでなく、ゆつくりと、聲も大きく、わかりやすい様によむ。そして時々々は本を離れて幼児の記憶を呼びおこしながら、お話し合ふ様にするのがよいと思ふ。例へば、乗物の本を讀んでゐる。「こんなのに乗つた事あるでせう」と問ひかければ、幼児は皆得意になつて「ある〜」と連發する。その中に自然と幼児の心もほゞけて來、くつろいで行くのである。繪本の選擇はいふまでもなく繪を主としたもので、例へばキンダーブックなどその一つであらう。

砂いちぢり いろ〜の砂遊び道具もあるが、先づお杓子シヤモジを與へるがよからう。場所に應じ種々工夫もあらうが、何かこの様なものを用意して幼児に銘々つかはせる。サラ〜と銀砂のお山

が出来、川が出来。初めの中は先生中心に、川に積木の橋をかけたなり、トンネルを掘つたり、次第に規模を大きくしてゆく。

がらんこ お空にとどくかと思はれる程に氣持よく動いてゐる。僕も乗りたいなあど先刻から睨んでゐる。大抵はまだ一人で漕げないから、此方で押してやる。「しつかり落ちぬ様につかまつて下さい。動きますよ」といつてやるが、體がまだしつかりとしてゐないし、馴れないために、いきなりきつく後から體を押すと、すぼんとぬけて落ちたりする。始めは繩をもつて前後にゆする程度がよい。そしてだん〜と、ゆりかたを大きくしてゆく。又この遊びでは、次々と自分の番の來るまで、危くない所に一列に並んで待ち、幾つづ〜と回數を限つて順を守る習慣をつけることが訓練上大切であります。

かごめ

かごめ かごめ

籠の中の鳥は、いつ〜であふ

夜明の晩に鶴と龜とすべつた

後の正面であーれ

これは誰れも知る昔からの遊びである。圓をつくり、中に一人目をつむつてしやがむ。この歌を歌ひつゝ、まはる。最後の「だあれ」で皆しやがむ。中の人は自分の後にあたる人を手でさわつてみたりして誰だかあてゝ其の名をいふのであります。

ま〜ごと 前の人形遊びを延長させて。ごご、ま〜ごと、道具等

を用意する。あまり複雑のはまだ出来ぬから、木の葉や、草の御馳走をつくつて皆で食べたり、又御馳走の買出しに出掛けたりす

る。時節柄女中は使はないがいゝ。赤ちやんをお蒲團にねかすにしても、

御馳走を本當の様においしく戴くにしても、終始先生が正しい仕方をして見せて指導してゆかねばならぬ。又時には、年長組のおまゝごとのお客様にさせてもらひ、皆で出かけてゆくのも幼児同志お互ひに教へられるであります。

枠のほり 乗つてみたいはみたくいゝが、いざやるとこわいといふ子供も少くない。しつかり落ちついて、あせらず少しづつ登らせる。腰の落着かぬ幼児は下からおさへてやるのもいゝ。高く登つた幼児は、お友達よりも、先生よりも、幼稚園よりも高くなつたといふ事ですつかりうれしくなつて「先生よりも高い」などゝとて喜ぶ。

次第に馴れるに従ひ自信を得て、枠の中で鬼ごつこをしたり種々の遊びを考へ出して来る。

鬼ごつこ 皆様のよく御存知の普通の鬼ごつこである。しかし中には負けた人がつかまへる方になり、勝つたものは逃げればよいといふ事が理解出来ぬ幼児がある。それも次第にわかつて来るであらうが、やはり始めは先生が鬼になり「そら〜つかまへますよ」といつて追駈けて行つた方がわかり易いらしい。結局は鬼ごつこことなるのだが、はじめは追ひ駈ごつこ位の程度でもよいと思ふ。

かくれんぼ 始めは、かくれる範囲を狭くあつかふ。例へば部屋の中とか廊下とかである。かくれ方も年長組でする様に複雑な所にかくれるのでなくて、ちよつとかくれる程度がよい。鬼は一

人でなく二三人づゝすると心細くなくてよいであらう。

積木 これは室内で用ふる積木で、正方形、長方形、三角形の積木。色など塗つてないのがいゝ。先生が高く積んでみせたり、お家、自動車、汽車等作つてみせると、幼児も真似し種々作りはじめ。馴れて来ると、製作は次第に靜的から動的に移り、汽車がはしつたり、機關銃から弾がとび出したりする。そういう時に、手荒に積木をあつかはぬこと、一人でよくばり取らぬこと。訓練上注意したい點である。

こま廻し 自分で模様を畫かせ、切抜いてやつてコマを作つてやる。くるつと廻すと、赤、紫、黄、緑と五色の線を畫いてまわる。「やあ、僕の作つたコマがこんなによく廻る」と喜ぶ。恐らく最初の喜びであらう。やがて「どつちが長くまわるかなあ」と競走させてみたりしだして。コマ遊びに夢中になる。

滑り臺、トンネル遊び 幼少の子にも比較的的安全で、その點、すべるといふだけの面白さしかないから、其處を此方で興味豊にさせねばならぬ。長く續いた汽車に先生は途中手でトンネルをつくる。又は踏切りになつて止れ、進めと信號したりしても面白く遊べる。中には急行列車や故障車も出てくる事である。

砂場遊び 一週目の砂いちりから、次第に各自の工夫も出来て来て、相當の所まで發展してゆく。砂場の積木で飛行機が出来ると、お舟が出来ると、お山の上には木が植り、お家も出来る。子供の世界は次々と展開し工夫されてゆく。私共はそれを手傳ひつゝ指導してゆかなければならぬ。

はな一もめん 始めは年長組の幼児と共に遊ぶ事にする。同人

數二列に別れて相對し竝ぶ。歌にあはせて、互ひ違ひに出たり、引つこんだりして、相手を遊びその人が引つぱりつこをする。中々勝負のつかぬ時はじやんけんできめる。その歌は

勝つてうれしい花いちもんめ

負けてくやしい花いちもんめ

ふるさとまどめて花いちもんめ

〇〇さんとりたい花いちもんめ

他にも種々違つた言葉もあるでせうが一般には大抵この言葉を用ひてゐる。次第に相手をとられて人数が少くなると、その方は買けになるのである。「〇〇さんしつかり〇〇さんしつかり」と應援が又一段とこの遊びを引立てる。

遊 戲

古 澤 靜 子

四月の遊戯室に於きましては、先づ合圖に依る起立、着席。圓形や縦横の列を作る。楽器や先生の手拍子に合せて遊戯をする。或は遊戯室へ出入に際しての規律に至るまで、凡て「お友達と揃つて」の觀念のもとに行動をおこし度いと思ひます。

部分的な個々の訓練よりも、團體行動を起し得る爲の、基礎的訓練を行ふ事を主眼點に致し度いと思ひます。

何しろ入園後間もない頃でありますから、その材料や計畫に於きましては、出来るだけ簡單なものにとゞめ、幼兒の遊びの中、主要素をなしてゐる

〇歩くこと
〇駈ること
〇とぶこと

の三つの基本的動作の取扱ひより
二、三の平易な遊戯へと發展の徑路をとつて見ることに致しました。

〇歩くこと

一體正常歩には如何なる要素が必要であるかと申しますと、それは最初、踏出される脚、即ち振動脚の力がよく抜けてゐること。足が最初地面に觸れる際、膝が伸びてゐること、足尖が概ね歩く方向を向いてゐること、體が眞直に保たれてゐること、臂が肩から自然に振れること、等と云ふことが出来ませう。

歩行は現代の人類にとつて最も自然的な運動で、全く生得的な運動でありますから、特に練習の必要など無いわけでありませんが、不自然な生活によつてその歩態も歪められ、或は歩態が歪められるが故に、生活の一部に不自然を及ぼす爲、幼兒の中から、特に歩行訓練の必要を生じるものであります。

然してその訓練は、單に歩、そのものゝ理を尊重する事は勿論であります。入園當時の不完全な音樂的訓練と相俟つて、ピアノオルガン手拍子或はその他の諸樂器に依り、遊戯として興味多く楽しく取扱ひ度いと存じます。

では、二、三の例を擧げてみませう。

お室の散歩 曲は行進曲を用ひます。

一列に並び、或は二人づゝ手をつないで散歩に出かけませう。お室の隅から隅まで眞四角に歩いたり、まん丸いお月様が出来るまで圓く圓く歩いたり、お室を對角線に横切つたり。